

な た で ら く り て い え ん
那谷寺 庫裏庭園

種 別	重要文化財 名勝
指定年月日	昭和4年4月2日
所 在 地	那谷町（那谷寺）

那谷寺の書院に隣接する庭園で、書院と同じ寛永12年（1635）頃に作庭されたとされる。作庭奉行は分部卜齋^{わけべほくさい}で、金沢城や小松城の作庭にも携わった人物である。泉水を含む主庭と書院北側の平庭、茶室「如是庵」^{によぜあん}（小松市指定文化財）の茶庭から構成されている。

元は東側に広がり、主庭は築山泉水庭^{つきやませんすい}であったと仮定されているが、現在は池に石橋が架かるのみで、築山は現在残っていない。

平庭は飛石^{さんぞんいし}と三尊石^{きりいし}が中心となっている。飛石はやや大ぶりの山石を埋めたもので、一部に短冊形や三角形の切石を使い、書院・茶室・泉水の三方へ伸びている。また庭内には大小の石を三尊仏の様に立てた三尊石組が二組あり、この庭園の主要な景観をなしている。このように飛石本位の庭に三尊石を配置して見せるのは、江戸時代初期の好みである。

作庭当時の姿を残すものは飛石や三尊石など数少なく、現在ある灯籠等は後世のものと思われる。しかし利常の時代の風景が各所に残り、江戸時代初期の庭園の好みを現在に伝える貴重なものである。

